

問い合わせ先

(財)日本水路協会普及企画部
横尾 03-5708-7070

財団法人日本水路協会
平成 23 年 3 月 24 日

東日本大震災域の港湾・漁港を網羅した 航海用電子参考図の無償提供について

財団法人日本水路協会では、東日本大震災の被災地域に対する海上からの物資輸送や港湾・漁港等の復興を支援するため、被災地区の大小の港湾・漁港を網羅した航海用電子参考図「new pec（ニューペック）」NP07Sの無償提供を3月24日(木)から開始しました。当協会のホームページから自由にダウンロードすることができます。

[new pec NP07S（本州東岸）のダウンロード頁](#)へ移動

今回無償提供する本州東岸（千葉県犬吠埼北方から岩手県北岸まで）の new pec NP07 は本年5月に発行する予定でしたが、このたびの震災を踏まえて作製を加速し、暫定版として無償で緊急リリースするものです。ダウンロードに当たって、法人名、連絡担当者名、連絡用メールアドレスを記入していただくと官庁、大学、民間企業、個人を問わずどなたでも自由にダウンロードすることが可能です。また、ソフトウェアのコピーも自由です。なお、震災により大きく変化した防波堤等の状況を可能な限り取り込んだ情報(PDF図)を添付します。

1. new pec について

new pec は、ヨットやモーターボートなどのプレジャーボートの航行支援を目的として海図の類似刊行物（航海用電子参考図）として開発したもので、既に発行済みの海域では約 1000 隻のプレジャーボートが航海に使用しています。今回緊急リリースする new pec NP07S は東日本沿岸を対象としており東日本大震災被災域の港湾・漁港の航海情報を網羅しています。大震災の被災地域への海上からのアクセスには様々な船舶が従事することが想定されるため、その航海を支援するために利用者を限定することなく無償提供するものです。

仙台塩釜港や気仙沼港などの大きな港湾や漁港は海上保安庁の海図が発行されていますが、リアス式海岸の小港湾や小漁港は海図が発行されておらず、地元船舶以外が海上から港にアクセスすることはかなり困難です。new pec は海岸線や港湾・漁港の形状、海域の水深（等深線）、航路標識、漁具設置区域など海図と同等の航海情報を詳細に表示可能なパソコン用のソフトウェアです。なお、new pec は国土交通省から沿岸を航行する小型船舶が備えるべき「沿岸小型船舶用参考図」の指定を受けています。

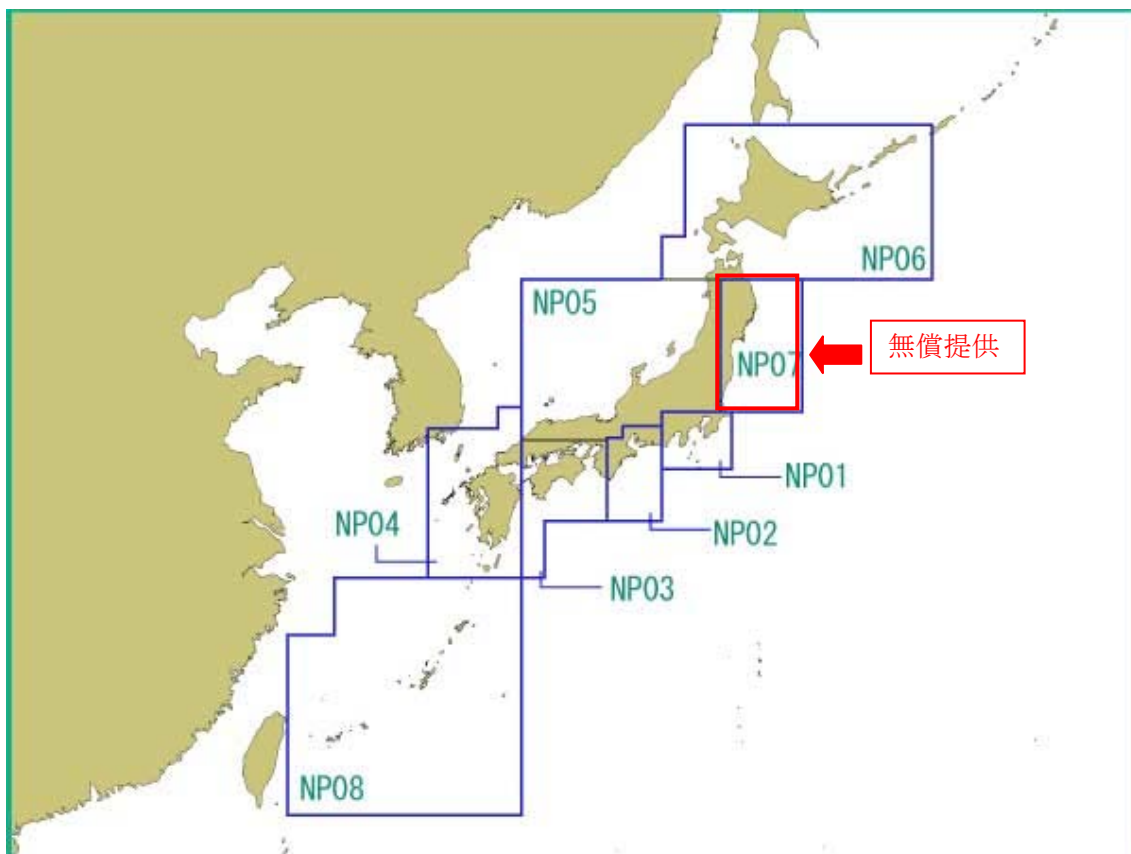
2. new pec の使用方法

当協会のホームページからダウンロードした new pec のソフトウェアをパソコンにインストールして使用します。パソコンに市販の GPS 受信機（4,000 円程度から）を接続すると海図情報の上に自船の位置や航跡、針路、船速などが表示され、高機能・高精度の船舶用 GPS プロッターとして使用することができます。

3. 震災後の最新情報について

今回の震災によって多数の防波堤や岸壁等が損壊しています。今回緊急リリースする new pec NP-07S は、震災前の状況図です。このため、国土地理院が震災直後に撮影した航空写真を利用して防波堤等の損壊状況を可能な限り表現した海域の情報(PDF 図)が添付してあります。港内や極沿岸域は津波によって水深が変化したり、自動車やがれき等の航路障害物が多数存在するものと考えられます。港内や極沿岸域を航行する場合には船舶装備の音響測深機を使用して水深や異物を確認しながら航行する必要があります。また、地震・津波によって多くの航路標識が損壊・移動・消灯しています。航路標識の最新情報は海上保安庁のホームページや航行警報、水路通報で確認してください。

今回緊急リリースする NP-07「本州東岸」表示海域と new pec の発行状況/予定



- ・ NP-01「東京湾及び周辺」 NP-02「伊勢湾及び周辺」 NP-03「瀬戸内海及び四国周辺」 NP-04「九州周辺」 NP-08「南西諸島」は発行済み。
- ・ NP-05「本州北西岸」 NP-06「北海道及び本州北岸」は 23 年度中に発行予定。

〈参考〉

震災により大きく変化した防波堤等の状況を可能な限り取り込んだ情報(PDF 図)
“東日本大震災により破壊された港湾防波堤箇所の情報.pdf”の**内容見本**



田老漁港(岩手県下閉伊郡田老町字田老) ×は、防波堤の破壊箇所。